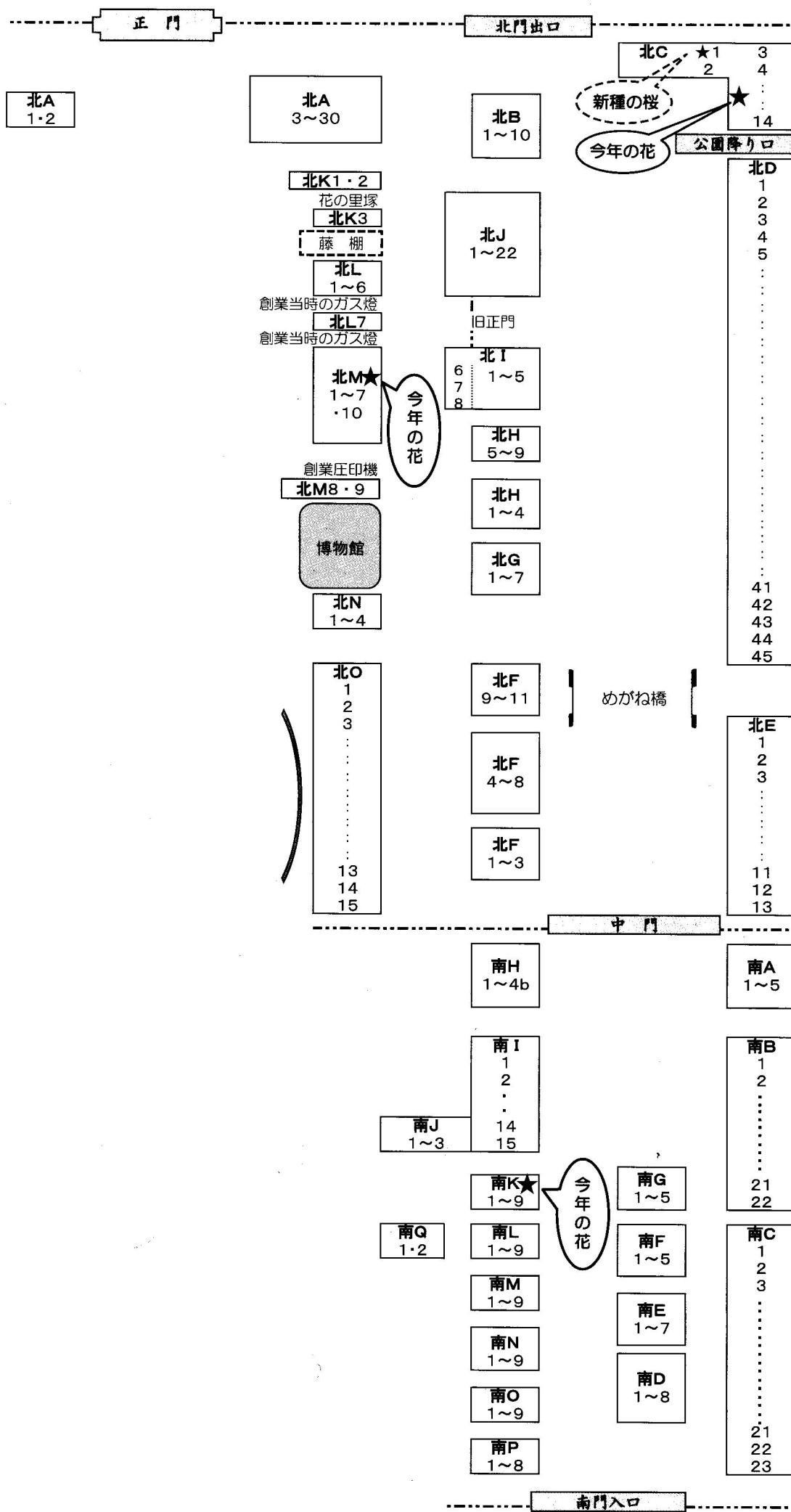


「桜の通り抜け」桜樹植樹図



造幣局通り抜け 桜樹の名称 (◎は今年の花、○は新種の桜を示す)

平成28年4月現在

品種名	本数	花の説明	主な植樹場所
あ 東錦	1	東京荒川堤にあった大島桜系の里桜で、花弁数は15~20枚の大輪の優雅な品種。花は淡紅色で、つぼみは濃紅。	南P-8
あ 天城吉野	1	大島桜を母、江戸彼岸を父として交配した桜で、花は一重で、白色の大輪である。	北A-19
あ 天の川	3	東京荒川堤にあった里桜で、樹姿がほうき状となり、淡紅色の花が上向きに咲く珍しい品種である。花弁数は10~20枚ある。	北E-8 南J-3 南K-6
あ 雨宿	1	東京荒川堤にあった桜で、葉かけに垂れて咲く形があたかも葉かけに雨をよけているようにみえるのでこの名がある。蕾は淡紅色、花は白色、花弁数は10から15枚である。	北O-11
あり 有明	1	淡紅色の花で、八重と一重が混じって咲く大島桜系の里桜で、芳香に富んでいる。	北J-14
い 伊豆最福寺枝垂	1	静岡県伊豆市の最福寺にある桜。枝は垂れ下がり、花は開花すると白色になる。花は大きく、その昔、満開の頃には、対岸の清水方面から見えたとの話がある。	南H-3
いち 市原虎の尾	1	京都洛北市原にあった桜で、その咲く有様は、虎の尾のようで、花は淡紅白色で、花弁数は30~40枚ある。	北G-1
いち 一葉	5	東京荒川堤にあった里桜で、花芯から1本の葉化した雌しべがあるのでこの名がある。花は淡紅色で、花弁数は25枚程あり満開時には白味がかる。	北A-17 北B-1 南D-8
いつ 早晩山	2	東京荒川堤にあった里桜で、花は大輪、花弁の先端に深い切り込みがあるのと花弁の中央に紅の縦線が入るのが特徴で、花は淡紅色を帯びた白色。	北D-14 南M-6
いと 糸括	2	江戸時代から知られている桜で、花は淡紅色、花弁数は10~15枚ある。	北M-6 南O-1
いも 妹背	5	花は濃淡になった紅色で、時に一つの花に実が二つ、対になってつくことから、この名が付けられた。花弁数は30枚程あり、二段咲きが見られる。	北D-27 北J-20 南N-9
い 伊予薄墨	3	松山市西法寺に原本のある桜で、花は淡紅色で、花弁数は10~20枚あり、小輪咲きの優雅な里桜。	北C-11 北H-8 北L-3
う 鬱金	7	古くから知られた桜で、江戸時代に京都知恩院に植えられていたといわれ、樹姿は直立高木で、花は淡黄緑色のショウガ科のうこんの根の色に似ていることから、この名が付けられた。花弁数は10~15枚ある。	北D-36 南B-21 南D-4
う 雨情枝垂	1	詩人の野口雨情氏の邸内（現在の宇都宮市鶴田町）にあったことから、その名が付けられた。花は淡紅色で、花弁数は20~26枚ある。	南H-1
うず 涡桜	1	東京荒川堤に元々あった桜とされている。花名は、しわのある花弁が渦を描くように、ややらせん形に並ぶことによる。淡紅色の八重咲で、花弁数は30枚程である。	北A-29
うら 浦和	3	浦和の桜愛好家が育成した品種で、花は淡紅色である。	北D-26 北J-9 北M-8
え 永源寺	2	滋賀県の永源寺の境内にあった里桜でこの名が付いた。花は香りがやや強く淡紅色から白色に変わり、大輪で下垂する。	北D-40 南L-3
え 江戸	1	江戸に多く植栽されていたので、一名「あづま桜」といわれている。花は淡紅色で、花弁数は15枚程あり、大輪で多数密生し、やや垂れ下がって咲く。	北D-1
お 大沢桜	2	京都嵯峨野の大覺寺境内にあった大沢池畔にあった非常に美しい淡紅色八重で、花弁数は15~18枚の優雅な里桜である。	北D-4 南C-17
おお 大島桜	2	伊豆七島などに自生する桜で、花は大きく一重の白色で芳香がある。潮風塩害に強い。	北C-5 北F-5
おお 提灯	5	球形の大輪の花が提灯のようにぶら下がって咲く。花は淡紅色を帯びた白色である。	北F-8 北G-4 南E-7
おお 手まり毬	4	多数の花が枝の先に密生して咲き、大きい手毬の状態となるところから、この名が付けられた。花は中輪の淡紅色で花弁数は20枚程である。	北A-30 南B-20 南H-4b
おく 奥みやこ都	1	咲き始めは淡紅色であるが、満開時には白色となる。直径4~4.5cm、花弁数は20枚の八重桜である。	南C-11
お 御室有明	1	京都御室の仁和寺にある代表的な里桜で、足もとから淡桃白色の花が咲き、低木状をなしている。一重八重の優秀な品種である。	南B-11
おもい 思川	1	栃木県小山市の修道院にあった十月桜の種から育成された桜である。修道院の下を流れる川の名にちなんで、この名が付けられた。花は淡紅紫色で、花弁数は6~10枚ある。	北O-3
か 春日井	2	奈良春日山の麓にあった桜を京都市の佐野簾右衛門氏が接木育成した桜。花は淡紅色で、花弁数は15~20枚の里桜。	北H-4 南O-8
かま 鎌足桜	3	千葉県君津郡鎌足村（現在の木更津市）に古くからある桜で、花弁数は30~40枚あり、花弁の先が細く屈曲して鎌形をしている。花は淡紅色。	北D-10 北I-5 北J-8

	品種名	本数	花の説明	主な植樹場所		
か	寒 桜	1	寒緋桜と山桜の雑種といわれ、花は一重の淡紅色で、3月上旬に他の桜に先駆けて咲き始める。	南 N-3		
	簪 桜	1	佐野簾右衛門氏が東北の旅の途中、見つけた桜で、花が婦人のかんざしに似ているところから、この名が付けられた。花は淡紅色で、花弁数は14~31枚。	北 G-6		
	関 山	66	明治初年東京荒川堤の桜として有名になった桜で、花は濃紅大輪で、花弁数は30枚程度である。	北 D-38	南 L-4	南 O-2
	関 東 有 明	1	関東にあった有明桜で、淡紅白色の大輪の優雅な花である。	南 C-16		
き	祇王寺祇女桜	2	京都祇王寺にある桜で『平家物語』の祇王祇女にちなみ、この名が付けられた優雅な桜。花は淡紅色で、少し芳香があり、花弁数は15枚程度ある。	北 I-8	南 N-1	
	菊 桜	3	花弁数が100~200枚と非常に多く、菊の花に似た優雅な桜である。花は淡紅色である。	北 A-26	北 J-3	南 A-5
	黄 桜	1	樹姿は直立形、花は黄色で花弁数は10~15枚を有し、花径約4cmもある大輪の八重である。	北 D-3		
	衣 笠	2	京都平野神社境内にあった一重桜で、花は淡紅色である。神社の後方には、衣笠山と呼ばれる山があり、発祥地との説もある。	北 I-2	南 K-1	
	貴船雲珠桜	1	京都洛北の貴船にある雲珠桜で、明治初年鞍馬寺から拝領したものと伝えられている。一重で淡紅色の清楚な桜である。	北 B-9		
	御 衣 黄	5	花は黄緑色で、開花がすすむにつれて花弁の中心に紅色の縦線が現れる大変珍しい品種で、花弁数は15枚程度である。	北 H-5	南 B-18	南 K-7
	桐 谷	2	鎌倉桐ヶ谷にあった大輪の花で、紅色の一重八重の美しい品種である。	南 L-1	南 M-5	
	麒 麟	1	東京荒川堤にあった里桜で、花は濃紅紫色で、花弁数は30~35枚の気品の高い品種。	北 O-6		
く	黒田百年	2	京都府京北町の黒田神社境内にあった名桜で、佐野簾右衛門氏によって、接木し育成され、明治100年を記念する意味も含め、この名が付けられた。	北 A-11	南 I-3	
け	兼六園菊桜	2	金沢兼六園にある有名な桜で、花弁数は多いもので300~350枚あり、日本で花弁数の最も多い珍しい桜で、原木は天然記念物に指定されていた。花は淡紅白色。	北 A-14	北 A-27	
こ	紅 華	4	北海道松前町の浅利政俊氏が実生の中から選出した桜で、濃紅色の花が密生して咲き、咲き方が華やかであるところから、この名が付けられた。花弁数は30~40枚ある。	北 D-45	北 M-4	南 L-5
	高 台 寺	2	京都洛東高台寺の玄関口にある桜で、花は淡紅白色、花弁数は10~15枚の優雅な大輪の桜である。	南 A-3	南 G-3	
	幸 福	2	北海道松前町法幢寺にあった八重桜の種子から誕生した桜。花は淡紅色で、花弁数は15~20枚ある。	北 D-35	北 J-7	
	九 重	3	大島桜系の里桜で、花は淡紅色で、内側も外側も花びらが同色の美しい桜である。	北 D-13	北 E-7	南 K-2
	御 信 桜	3	京都の佐野簾右衛門氏が作出した桜で、西本願寺元門主の大谷光瑞氏が命名したという。花は淡紅色で、花弁数は30枚程度ある。	北 D-28	北 E-6	北 J-5
	胡 蝶	1	京都御室仁和寺に元々あった桜とされている。花名は、満開時に蝶の舞い集う趣による。淡紅色の一重咲又は八重咲で、花弁数は5枚ないし10枚程度である。	北 M-1		
	小 手 椵	2	大手毬と同様であるが、花は小さい手毬の状態となるところから、この名が付けられた。	北 J-10	南 G-1	
	御 殿 勾	1	花の色は淡紫色。蕾は濃紅紫色で開花とともに花弁の内側から淡紅紫色となり、弁端は紅紫色が残る。花弁数は15~20枚である。	北 O-13		
	琴 平	2	香川県琴平神社境内にある山桜系の桜で、花は微淡紅色で、のちに白色となる。花弁数は6~15枚である。	北 O-15	南 A-4	
	駒 繁	1	親鸞聖人が駒をつないだと言い伝えられている有名な桜で、花は白色帶紅の大輪一重で、太白に似ている。	南 B-14		
さ	作 並 山	1	淡紅色の八重咲き、花期は4月下旬とかなり遅い。	北 H-7		
	筆 賀 鴛 鷺 桜	1	原木は長野県松本市 笹賀地区にあり、百瀬氏が自宅で栽培していた大島桜の種子より育成選抜されたという桜。葉や花の特徴から、大島桜にオシドリザクラが交雑したものと推定され、花は淡紅色で、花弁数は50~60枚ある。	北 B-4		
	筆 部 桜	2	水上勉氏の小説『桜守』のモデルとなった筆部新太郎氏が、実生の中から選出育成した桜。直立高木で成長が早く、花は淡紅色で、花弁数は14枚程度の中輪である。	北 M-2	南 N-4	

	品種名	本数	花の説明	主な植樹場所		
さ	佐野桜	2	京都の佐野園において、山桜の実生約1万本中より八重の優秀な花が咲いたので、牧野富太郎博士がこの桜を佐野桜と命名した。花は開花が進むと白色となる。	北 I-7	南 B-3	
し	塩竈桜	2	仙台塩竈神社にあった八重桜で、大輪の花が密生して咲く。花は淡紅色で花弁数は35~50枚で縦しづわがあり、先端は切れ込みが多く、雌しづわが緑色葉化している。	北 B-3	北 E-2	
し	静香桜	2	北海道松前町で、「天の川」と「雨宿」との交配から選出育成された桜。色は白色で、花弁数は15~20枚あり、芳香がある。	南 D-2	南 M-1	
し	枝垂桜	2	彼岸桜の突然変異品種で、幹の高いところから枝が横に広がりそれより細い枝が長く垂れ下がって誠に優美である。花は一重の淡桃色である。	北 L-6	北 M-10	
しば	芝山桜	2	東京荒川堤にあった一重の桜で、つぼみは極淡桃色で、開花後白色となり少し香がある。	北 F-7	北 J-17	
しゅ	朱雀桜	3	昔、京都朱雀にあった有名な桜で、直径約4cm、花弁数は10枚程あり、花は淡紅色で、外弁はやや濃紅、やや垂れ下がって咲く。	北 A-18	北 E-10	南 B-1
じゅう	十六日桜	1	松山市の龍隱寺（廃寺）にあった桜で、桜花を見ずに死ぬのは心残りという病父の望みをきいて、孝子吉平が桜に祈念したところ、旧暦正月16日というのに桜を咲かせたという伝説のある桜。花は、白色で一種の里桜である。	北 J-4		
じゅ	数珠掛桜	2	新潟県京ヶ瀬村の梅護寺にある桜で、花は淡紅色菊桜系で、親鸞聖人が桜の枝に数珠をかけられたという故事から、この名が付けられた。花弁数は200枚程である。	北 J-21	南 I-4	
しょ	鐘馗桜	2	東京荒川堤にあった桜である。	北 O-9	南 D-1	
しょ	松月桜	10	東京荒川堤にあった名桜で、平野神社の平野撫子に似ている。花は最初淡紅色で、次第に白色となり、花弁数は25枚程で、葉化雌しづわがある。	北 E-5	北 I-4	南 D-6
しら	白雪桜	2	東京荒川堤にあった里桜系の名花で、花は白色の一重で、花つきが多い優美な品種である。	北 A-16	北 F-11	
しろ	白妙桜	2	東京荒川堤に移植された大島桜系の里桜の一種で、花は白色の大輪で、花弁数は10~15枚ある。	北 B-2	北 G-5	
しん	心田桜	1	京都嵯峨野の天龍寺にある塔頭慈済院の玄関脇の桜で、御所の御車返の一種である。慈済院の管主稻葉心田の名前から、この名が付けられた。	北 A-24		
す	すい水しょう晶	1	花は白色で小輪ではあるが気品が高い。花の外側は僅かに淡紅色を帯び、散る間際になると中心が紅色を帯びる。花弁数は20~50枚で、先端に切込みが多く変化に富んでいる。	南 P-4		
	すまうらふげんぞう須磨浦普賢象	2	平成2年4月、兵庫県神戸市の須磨浦公園において「普賢象」の枝変わりとして発見された。花色が黄緑色に変化したもので、開花終期には花弁の基部から赤色に変色する。	北 N-4	南 O-5	
	すみ墨ぞめ染	1	東京荒川堤にあった桜で、花は淡紅白色、直径は大きく4cm、一重の里桜。若葉の色がやや暗い感じがするところから、この名が付けられた。	北 J-6		
せ	仙台屋桜	1	高知市内の仙台屋という店の庭に植えられていた桜で、牧野富太郎氏が名付けたと言われている。花は一重、淡紅紫色である。	北 A-13		
せん	千里香桜	1	東京荒川堤にあった桜で、芳香があるためこの名が付けられた。花は大輪白色である。	南 P-3		
そ	そめ染井吉野桜	1	江戸末期頃、駒込染井村の植木屋が初めて出した品種と伝えられる。成育が早く接木が簡単なため、急速に日本各地に伝わった。	北 J-22		
	その園里黄桜	1	長野県須坂市豊丘町梅ノ木地区で羽生田郁雄氏が発見した普賢象の枝変わり品種で、黄緑色に緑の筋が入った花を咲かせる。旧村名にちなんでこの名がつけられた。	南 B-5		
た	たい泰山府君桜	3	東京荒川堤にあった桜。花が散るのを惜しんで泰山府君（中国の泰山の神）を祭り、花の命を長らえたと言う故事から、この名が付けられた。	北 L-1	南 C-6	南 K-3
たい	太白桜	1	日本で品種がなくなり、昭和5年イギリスの桜の収集家イングラム氏から接穂が寄贈され、佐野篠右衛門氏が接木育成したもので、一重白色大輪の名花である。	北 D-30		
た	手弱女桜	2	京都平野神社境内にある桜で、花は淡紅色で中輪。花弁数は15~20枚で、内に抱えるような形となり美しい桜である。	北 D-23	南 H-2	
たかとおこひがんざくら	高遠小彼岸桜	2	長野県高遠町の高遠城址にある県天然記念物に指定されている桜。花はやや小ぶりの一重桜、花の色は濃い紅色で、枝が見えなくなるほど花を付ける。	南 E-1	南 O-3	
たき	瀧おり香桜	2	東京荒川堤にあった桜で、つぼみは淡紅白色、花は白色で芳香がある。時には旗弁がある。	北 A-3	南 A-1	
○	たぐい類嵐	1	東京荒川堤にあった桜で、花は白色の一重で、花弁数は5枚程である。（これまで調査中であったところ、新種であったことが判明）	北 C-1		

	品種名	本数	花の説明	主な植樹場所		
ち	千原桜	2	淡い緑を含む白色の花弁は、染井吉野の1.5倍と大きく、1本の小枝に一重と八重とが咲き乱れる様は、誠に見事である。	北A-8	北K-3	
て	手毬	1	古くからの桜で、江戸期の園芸書『花壇網目』に記述があるとされている。花がまとまって付き、てまりの様になる。淡紅色の八重咲で、花弁数は10数枚である。	北L-2		
な	島桜	1	金沢市の旧制第四高等学校（現在の金沢大学）にあった桜。花は淡紅色で、花弁数は100~200枚。	北A-22		
	南殿	1	チヨウジザクラと里桜との間に生じた桜と推定され、花は淡紅色で、花弁数は14~20枚ある。	北G-3		
	奈良八重桜	2	日本で最も古くからある八重桜で、昔より歌にも詠まれている有名な桜である。花は淡紅色で、開花が進むにつれ白色となり、花弁数は20~50枚ある。	北H-1	北I-6	
に	匂桜	1	山桜で天然品種の香桜である。	北D-32		
	二尊院普賢象	4	京都嵯峨野の二尊院にあった由緒ある名桜。親木は枯死したが、佐野簾右衛門氏の接木により後継樹が残っている。花は菊桜系で濃紅色で、花弁数は80~150枚ある。	北K-2	南B-15	南C-15
	二度桜	2	1本の木に、一重、八重、二段咲きの花があり、二段咲きでは、外側の花が開花し、内側の花が遅れて開花するので、二度桜という。	北N-3	南I-6	
は	八天桜	1	長崎県佐世保市木風町（きかぜちょう）に群生していた桜で、佐世保市八天岳の「八天宮」にちなんで、この名が付けられた。花は蕾のうちは淡紅色で、開花すると白色に近く、花弁数は約120枚ある。	南M-9		
	花笠	4	北海道松前町で、「福禄寿」の実生の中から選出育成された大輪の美しい桜で、雌しべが葉化し、その形状が花笠に似ているので、この名が付けられた。花は紅色で、花弁数は30枚程ある。	北A-5	北D-19	南B-17
	花染衣	2	北海道松前町で育成された桜。花見時の衣装である花染衣（ハナゾメゴロモ）にちなみ、この名が付けられた。花は淡紅色の八重咲き、直径4.5cmの大輪で、花弁数は40~60枚ある。	北D-6	北J-11	
	林一号	2	仙台の植木屋林氏が初めて育成した新しい八重桜で、花弁数は25~30枚ある。花は淡桃色で楊貴妃に似ている。	北N-2	南P-6	
	林二号	2	林一号に続き育成された八重桜で、花弁数は15~18枚ある。花は淡紅紫色をしている。	北O-2	南D-3	
	万里香	1	東京荒川堤にあった桜で、香りが良いのでこの名が付けられた。花弁数は20~25枚ある。	北E-4		
ひ	日暮	1	東京荒川堤にあった品種。花は外側の花弁の先端と外面は淡紅紫色、内側の花弁はほとんど白色である。花弁数は約20枚。	北O-7		
	ひ緋桜	1	花は大輪濃紅色で、花弁数は30枚程ある。	南I-12		
	ひ日吉	2	滋賀県坂本の日吉神社境内にある赤茶芽の山桜。花は淡紅色で、直径3.5cm、花弁数は30枚程ある。	北D-16	南C-3	
	平野妹背	1	京都平野神社境内にあった桜。花は紫味を帯びた淡紅色で、開花につれ淡紅白色になる。花弁数は22~25枚で、花は横向き又は下向きに咲く。	南C-13		
	平野撫子	3	京都平野神社境内にあり、花弁に撫子の花のように切り込みがある。花は大輪の淡紅色で、花弁数は40枚程ある。	北E-3	南E-5	南M-8
	平野ね覚	1	京都平野神社境内にある桜で、花は白色である。	北A-7		
ふ	福禄寿	2	東京荒川堤にあった大島桜系の里桜で、花は淡紅色で、花弁は波打つようなしわがある。花弁数は15~20枚あり、大輪として代表的なものである。	北G-7	南K-8	
	普賢象	12	室町時代から京都地方にある有名な桜で、花の中から葉化した二つの雌しべが突き出し、その先端が屈曲する。その状態が、普賢菩薩の乗る象の鼻に似ているので、この名が付けられた。花は淡紅色で、開花が進むにつれ白色となる。花弁数は20~40枚ある。	北C-8	南B-8	南F-5
	不斷桜	1	三重県白子寺町屋（現在の鈴鹿市）の白子観音境内にある有名な桜で、10月から翌年4月下旬まで開花する。特色は寒中でも葉が落ちないことで緑葉と紅葉が混じり、また若葉が絶えず出る。花は一重咲きの白色である。	北M-5		
へ	紅笠	3	北海道松前町で、「糸括」の実生の中から選出育成された桜である。花は淡紅色で、直径5~6cmもある大輪で、花弁数は50~60枚ある。	北A-9	北C-7	南P-2
	紅時雨	3	北海道松前町で、「東錦」の実生の中から選出育成された淡紅色の美しい桜である。紅色の豊かな花が垂れ下がって咲くことから、この名前が付けられた。花は濃紫紅色で、花弁数は28~40枚ある。	北D-5	南G-2	南M-2
	紅玉錦	4	北海道松前町で、「八重霞桜」と里桜の交配から選出育成された桜で、つぼみが紅の玉のようになり、花が球状になる。花は淡紅色の大輪で、花弁数は40~50枚。	北A-6	北D-24	南G-4

	品種名	本数	花の説明	主な植樹場所		
へ	べに 紅提灯	1	花の色は淡紅色。蕾は濃紅色で咲きはじめは紅色となり開花が進むと紅色から淡紅色となる。花弁数30枚前後である。	北 O-8		
	べに 紅手毬	7	小手毬と同様であるが、花が赤い手毬の状態となるところから、この名が付けられた。	北 D-43	北 K-1	南 C-4
	べに 紅南殿	1	京都の佐野篠右衛門氏が栽培していた桜。花は紅紫色。	南 E-2		
	べに 紅豊	3	北海道松前町で育成された桜。花は濃紅色で豊かな重弁（花弁数約15枚程）の桜となったので、この名が付けられた。	北 E-11	北 H-6	北 O-5
ほ	ほうき 篦桜	1	「ヤマザクラ」と「シナミザクラ」との間に生じた桜と考えられる。竹箒を逆さに立てたような樹形を作る。花径3cm程の花は淡紅色の長楕円形で、花弁数は20~30枚である。	北 I-1-2		
	ほう 法明寺	3	京都府美山町の法明寺境内にあった名桜を佐野篠右衛門氏が接木育成し、命名した。花は淡桃色白色である。	南 C-20	南 I-8	南 J-2
	ほ 帆立	2	花は白色で、雄しべの1~2本が花弁化して、帆を立てたような形をしているところから、この名が付けられた。	北 J-1	南 C-7	
◎	ば 牡丹	3	大島桜系の里桜で、花はふくらした牡丹の花を思わすような淡紅色の優雅な大輪で、花弁数は15枚程ある。	北 C-10	北 M-3	南 K-9
ま	まつ 松前	2	北海道松前町の浅利政俊氏が「糸括（いとくくり）」の実生から選抜した美しい里桜である。花は蕾濃紅色、開花後紅色、花径5~5.5cmと大輪花で、花弁数は35~42枚である。	北 O-4	南 Q-1	
	まつまえうすべにここのえ 松前薄紅九重	2	北海道松前町の浅利政俊氏が「ココノエ」と「カスミザクラ」との交配から育成した桜で、花は淡紅色で花つきが良く、花弁数は12~15枚である。	南 H-4a	南 P-1	
	まつまえこといとざくら 松前琴糸桜	2	北海道松前町の浅利政俊氏が昭和34年北海道松前町で毬山家の庭にあった無名の八重桜の種子から作り出した桜。花弁数は40~45枚ある。	北 D-34	南 I-1	
	まつまえべにひらさき 松前紅紫	1	北海道松前町の浅利政俊氏が「江戸」と里桜を交配育成した桜である。花の蕾は濃紅紫色で、開花後に紅紫色となる。花径4.5~5.5cmの大輪の花が枝に鈴なりに付き、下向きに咲く美しい桜で、花弁数は35~45枚である。	南 I-15		
	まつまえやえことぶき 松前八重寿	1	北海道松前町で浅利政俊氏が「糸括」と里桜との交配から選出育成した桜で、花は淡紅紫色で外側の花弁の先端や外面は濃い。花弁数は13~20枚である。	北 D-2		
み	み 御車返	2	大島桜系の里桜で、昔、この桜の花が一重か八重を確かめるため、車を引き返したという故事に因む。花弁数は5枚と6~8枚の花がまざる。	北 D-17	南 B-16	
	みやこ 都錦	3	京都御所にあった桜で、花は淡桃白色で、花弁数は20枚程である。	北 F-3	北 J-18	南 L-9
や	や 八重曙	2	花は淡紅色で、花弁数は11~17枚あるが、部分により濃淡がある。芳香に富んでいる。	南 I-11	南 M-4	
	やえべにおおしま 八重紅大島	2	花は淡紅色の八重咲き、大島桜系の一品種で、花弁数は26~35枚、少し香りがある。	北 D-41	北 H-9	
	やえべにしだれ 八重紅枝垂	2	仙台の伊達家にあった桜で、明治初年仙台市長の遠藤氏が植えたため「遠藤桜」とも呼ばれている。花は真紅の八重で花弁数15枚程あり、極めて美しい。	北 L-4	北 L-5	
	やえべにとら お 八重紅虎の尾	4	古くから京都で栽培されていた桜といわれ、その咲く有様は虎の尾のようで、花は淡紅色である。	北 J-13	南 C-1	南 C-10
	やえひらさきざくら 八重紫桜	2	紫桜の重弁の品種。三好学氏が小石川植物園において紫桜の実生を栽培したところ、重弁のものが生じたので、この名が付けられた。	南 C-9	南 C-22	
	や 弥彦	1	新潟県弥彦神社にある菊桜系で、花弁数100枚程あり、二段咲きをする。	北 A-12		
やま	こし山越	2	典型的な山桜系の桜で、花は濃紅色の一重である。	北 F-1	北 N-1	
ゆ	ゆう 夕暮	2	花は大輪の淡桃色で、夕暮れに美しいといわれ、花弁数は10枚程ある里桜で、芳香がある。	北 C-3	北 F-9	
よ	よう 楊貴妃	3	昔、奈良地方にあった桜で、つぼみは紅色であるが、開花時には淡紅色となり、花色も優れ豊満なので、中国の楊貴妃を連想して世人が名付けた。花弁数は20枚程である。	北 F-4	北 F-10	南 F-2
	よう 養老桜	2	直径3cmの白色の花で、花弁数は5~8枚の一重八重桜である。	北 L-7	北 O-1	
ら	らん 蘭蘭	3	北海道松前町で、「白蘭」と「雨宿」との交配から選出育成された桜。北海道松前の子供たちが上野動物園のパンダ「蘭蘭」の死を悼んだことと、花が密集して咲き、その付き方がふくよかでパンダの毛並みに似ていることから命名した。花は白色に近く、花弁数は20~25枚ある。	北 D-33	南 C-19	南 I-5
ろ	ろつ 六高菊	1	花は淡紅白色で菊桜の系統である。旧制第六高等学校（現在の岡山大学）の校庭にあったところから、この名が付けられた。	南 B-7		
合計		133品種 349本				